教職員のおすすめ本

本には、己と社会を変える力がある。

社会福祉学科 准教授　權 順浩
KUON SUNHO

われわれが社会のなかで一人の人間として生きていくうえで、必要なものは多くあろうかと思われるが、教育・福祉・雇用もその一つかと思われます。私たちが今、暮らしているこの社会は、一見単純にもみえるが、実際は、さまざまなことが絡み合って非常に複雑であり、そこから生じる問題も多いです。

そういった問題に対して自ら改善・解決していくために必要なものが教育です。しかし、いくら教育を受けたとしても、一人の力で改善・解決できる問題には限りがあります。そのときに、必要なものが福祉です。福祉は、一人で改善・解決できない困ったことについて、手を差し伸べて助けてくれたり、われわれの生活をより豊かにさせたりするものです。そして、雇用、つまり仕事は、われわれに生きがいを与えたり、生計を維持できるようにしたり、自己実現を図るものです。このように、教育・福祉・雇用は、われわれがこの社会のなかで生きていく術や支えになっているものです。

ところで、みなさんは、こうした日本の教育・福祉・雇用の仕組みについてどれくらい知っていますか。なんとなくわかるような気もするが、説明してみてねと言われると、難しく感じるかもしれません。ですので、少し役立つ3つの書籍を紹介します。

一つ目は、小熊英二(2019)『日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学』は、戦後、日本の仕組みがどのように構築され、発展してきたのかを歴史的な観点から書かれているので、日本の仕組みを理解するうえで、役に立つと思われます。

二つ目は、井上智洋(2018)『AI時代の新・ベーシックインカム論』は、今後生成型AIの発展によって社会がどのように変わるのか、それに備えて教育・福祉はどうあるべきなのかについて述べられています。

三つ目は、小熊英二(2012)『社会を変えるには』は、社会を変えるということがどういうことなのかを歴史的、社会的、思想的に述べられています。

紹介した本をとおして自分も社会も理解し、よりよいものに変えていきましょう。

『日本社会のしくみ
:雇用・教育・福祉の
歴史社会学』
小熊英二
講談社現代新書
講談社
362.1||O26

『AI時代の新・ベー
シックインカム論』
井上智洋
光文社新書
光文社
364||I57

『社会を変えるには』
小熊英二
講談社現代新書
講談社
309.021||O26